

浸水被害対策について(イメージ)

令和7年10月15日
逢瀬川流域水害対策協議会
谷田川流域水害対策協議会

(1)流域水害対策の基本的な考え方(イメージ)

- 逢瀬川、谷田川は、河道の特性として阿武隈川との合流点付近の河床勾配が緩やかであり、かつ、洪水の特性として阿武隈川と概ね同時刻に水位ピークを迎えることが多いため、阿武隈川本川水位の影響を受けやすい。
- 近年の地球温暖化に伴う気候変動等の影響による豪雨災害の頻発化を踏まえ、降雨量の増加等を考慮すると逢瀬川流域、谷田川流域における洪水リスクは、さらなる増加が想定される。
- 流域全体のあらゆる関係者が協働し、土地利用状況及び地形特性等を踏まえ、下記の3つの視点から流域一体で総合的かつ多層的な浸水被害対策を講じることにより、浸水被害の最小化を図る。

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

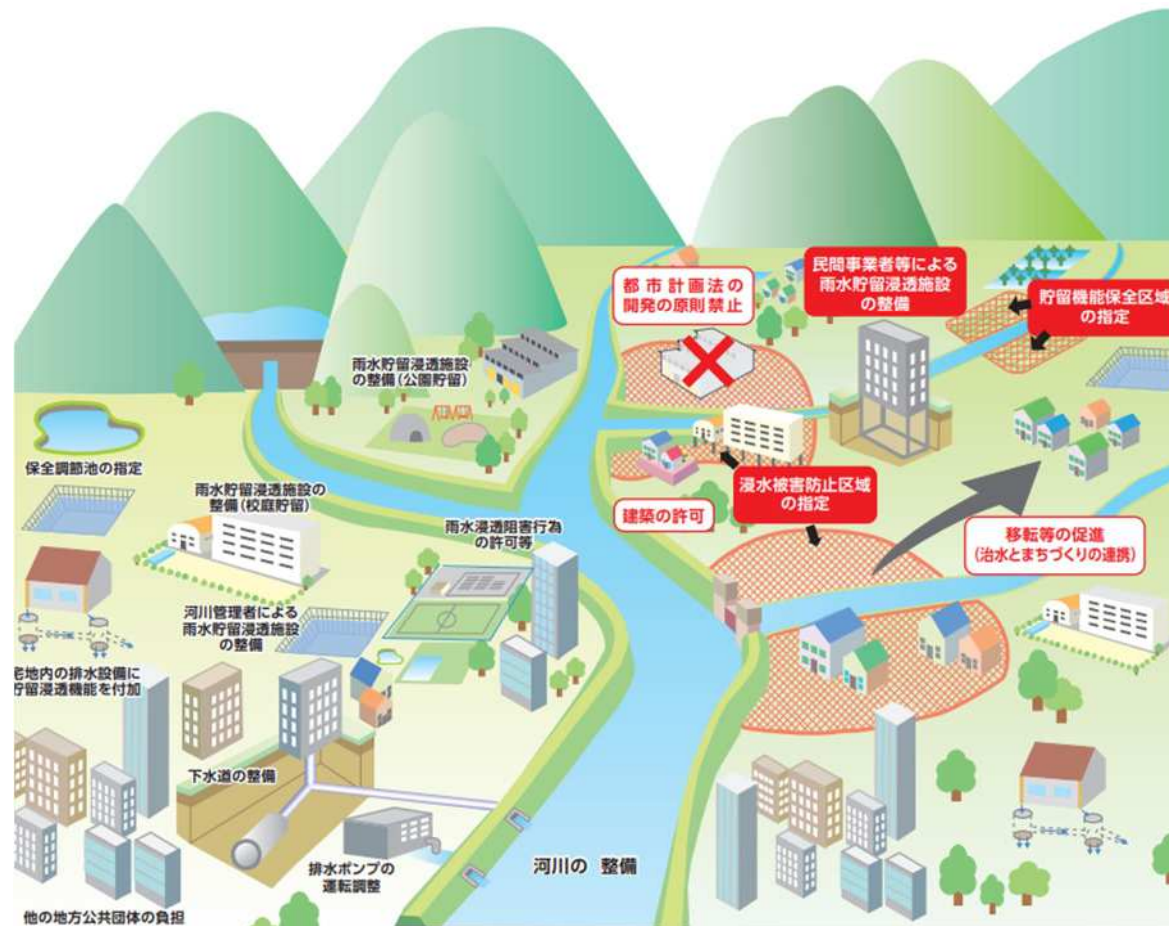
- ・ 河道掘削、浚渫
- ・ 堤防整備 等
- ・ 雨水貯留浸透施設等の整備、田んぼダム、ため池の治水活用 等

②被害対象を減少させるための対策

- ・ 立地適正化計画における居住誘導区域内での防災指針の策定
- ・ 貯留機能保全区域の指定、浸水被害防止区域の指定

③被害の軽減早期復旧・復興の対策

- ・ 浸水想定区域図、ハザードマップの周知、出前講座による水害リスクに対する理解促進
- ・ 洪水対策資材の提供、マイタイムラインの普及啓発等による避難実行性の確保 等
- ・ 浸水センサーの設置や排水ポンプ車の配備



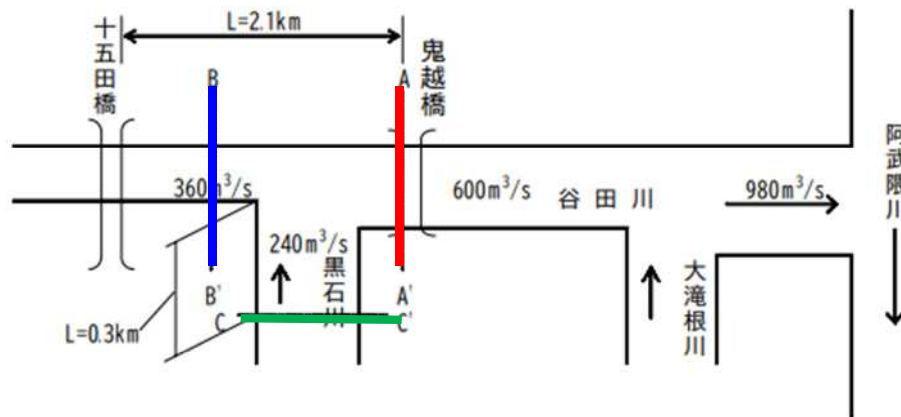
浸水被害対策のイメージ

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

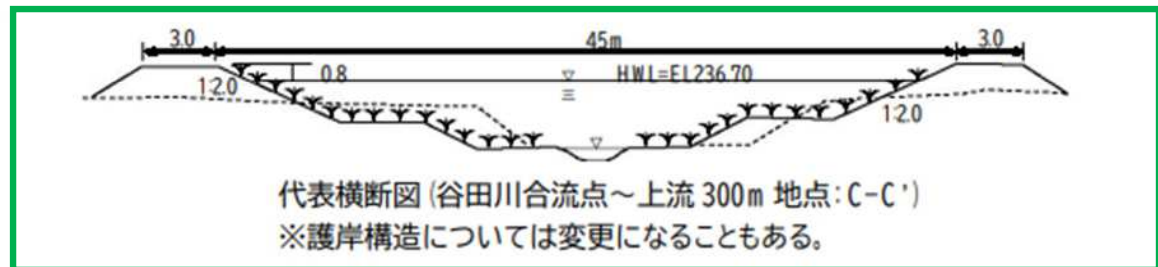
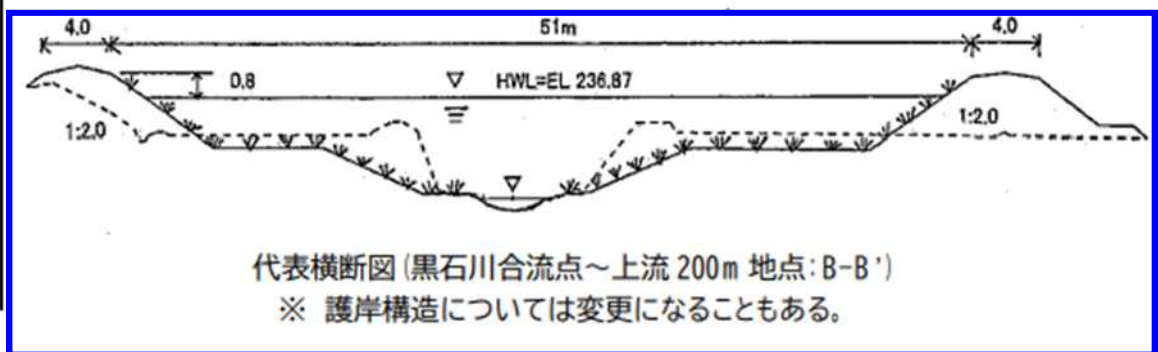
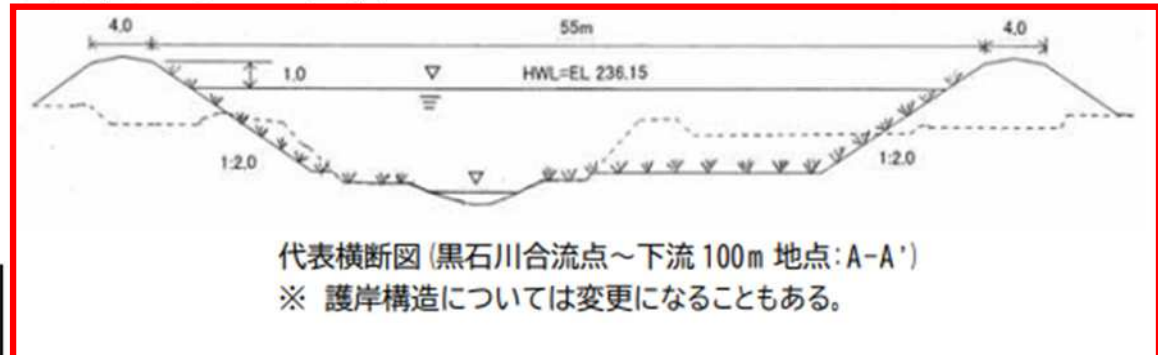
谷田川流域における河川整備

《イメージ》

- 河川整備計画等に基づく、一級河川谷田川や一級河川黒石川などの河川改修
⇒一定規模の降雨に対して、洪水等による災害の発生を防止



計画流量配分図 (谷田川)



出典：一級河川阿武隈川水系郡山圏域河川整備計画

逢瀬川流域、谷田川流域における下水道整備

《イメージ》

○郡山市ゲリラ豪雨対策9年プラン（100mm安心プラン）に基づく、下水道（雨水貯留）施設の整備
⇒局地的大雨により一時的に下水道の排水能力を超えることで発生する内水氾濫を軽減



雨水活用補助金制度(郡山市)

雨水について 考えてみましょう



田畑が多かった昔、雨が降ると、ほとんどの雨水は地面にしみ込んでいました。
しかし現在は、地面の多くが建物や舗装によって覆われているため、雨水はもっぱら側溝や下水道を通過して河川に流れていきます。
その結果、大量の雨が降ると、低い土地での浸水や河川での氾濫が起きやすくなりました。また、雨水が地面にしみ込まないことにより、地下水が減少・枯渇するようになりました。

このような被害を防ぐためには河川や雨水管の整備だけでなく、降った雨が一度に流れ込まないように
地域全体で貯留浸透能力を高め、雨水の流出を抑制する必要があります。

宅地化が進む前



宅地化が進んだ後



貯留浸透能力を高める!! ってどういうこと?

何もしなければ雨水は高いところから低いところへ流れていってしまいます。そして、水はけの悪い低地で溜まり、浸水被害が発生してしまうのです。この雨水を浸透施設を使ってできるだけ土に還す、または雨水貯留施設のために晴天時に利用することで地域全体の貯留浸透能力を高めることができます。



郡山市ではこれらの施設を
公共下水道全体計画区域内
において設置する場合、

工事費または購入費の2/3を補助
しています。みなさんとともに雨水の流出を抑制し、
浸水に強い安全な都市をつくりましょう。

※限度額がありますので詳しくは最終ページをご覧ください。

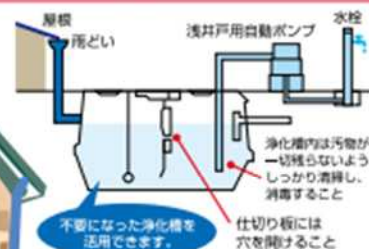
雨水貯留・ 浸透施設 ってどんなもの?



公共下水道への接続により不用となった浄化槽を転用する等
「浄化槽転用等雨水貯留施設」と、
地下にしみ込ませる
「雨水浸透ます」と、
屋根に降った雨を雨どいからためる
「雨水貯留タンク」があります。

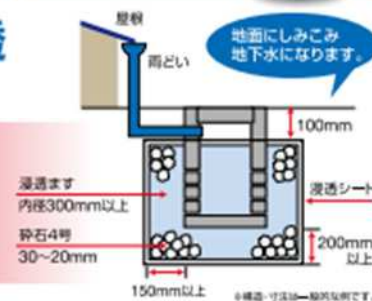
浄化槽転用等雨水貯留施設

公共下水道への接続により不用となった浄化槽を転用又は新たに貯留槽を設置し、屋根に降った雨を雨どいからためる施設。浅井戸用自動ポンプ及び散水栓を備えている施設が補助対象となります。



雨水浸透 ます

屋根に降った雨を雨どいから雨水浸透ますに送り、雨水を土に還す施設。



雨水貯留 タンク

屋根に降った雨を雨どいからためる施設。水栓を備えた市販の専用製品で、貯留量が100リットル以上のものが補助対象となります。



田んぼダムやため池の取組(郡山市)

農地・農業用施設を活用した流域治水の取り組みとして、逢瀬川流域の「田んぼダム普及促進」と「ため池の防災・減災力強化」を図り、雨水の一時的な貯留機能の向上による浸水被害軽減を目指す。

田んぼダム（排水柵・水位調整板等設置）

○排水柵・水位調整板等 設置面積 170.9ha(2024年度末)

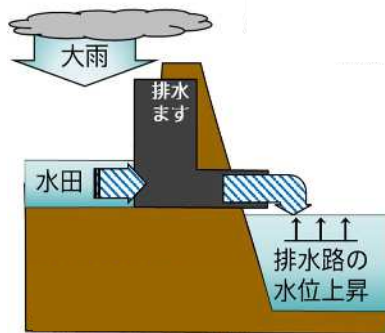


田んぼダム実施エリア



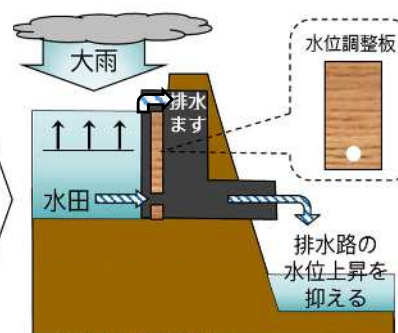
田んぼダム概念図

田んぼダム 未実施水田



田んぼダム
取組み後

田んぼダム 実施水田



ため池防災・減災事業

ため池が有する雨水貯留等の機能を最大限に活用し、下流域における防災・減災力を強化するため、ため池の浚渫及び放流施設を整備する。

【浚渫工事】
堆積土砂の撤去による貯水量の増加



【放流施設工事】
緊急放流が可能となる放流施設整備

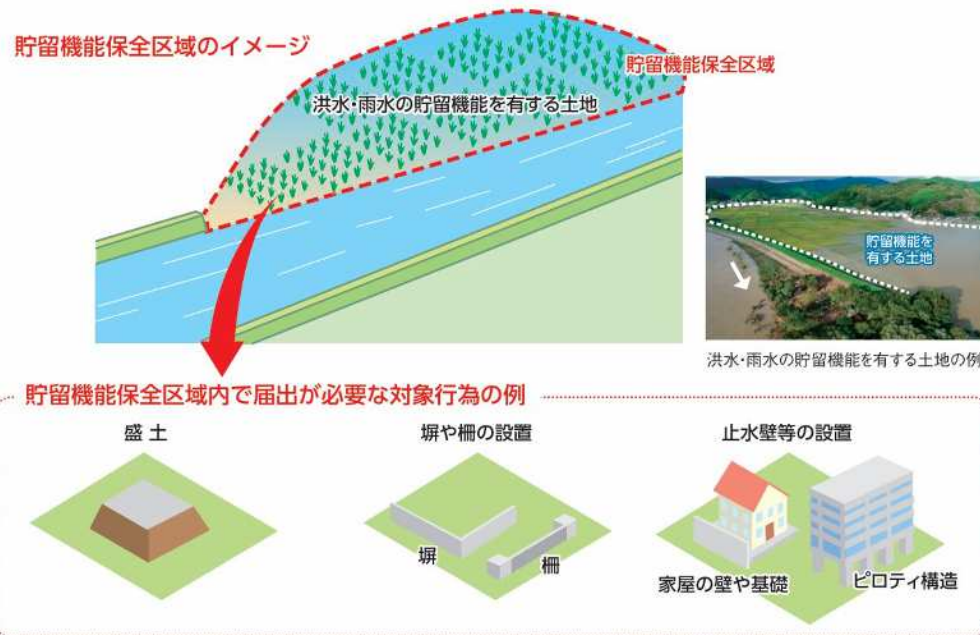


②被害対象を減少させるための対策

災害リスクを踏まえたまちづくり・住まい方の工夫

- ・郡山市では土砂災害警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域は住居誘導区域から除外している。
- ・立地適正化計画における防災指針の検討により、居住誘導区域を設定し、被害対象の減少を図っている。
- ・貯留機能保全区域の指定や浸水被害防止区域の指定等、浸水被害の軽減に向けたまちづくりとの連携についても検討していく必要がある。

○貯留機能保全区域の指定



○浸水被害防止区域の指定



浸水被害防止区域指定により活用可能な支援制度の例

嵩上げ等の支援制度

災害危険区域等建築物防災改修等事業
・区域内の住宅・建築物の改修に係る支援

流域治水整備事業／特定都市河川浸水被害対策推進事業
・区域内の宅地の嵩上げに係る支援

移転の支援制度

防災集団移転促進事業
・区域内から住居の集団移転を行う場合の事業に係る支援

がけ地近接等危険住宅移転事業
・区域内からの住宅の移転に係る支援

都市構造再編集中支援事業
・居住誘導促進事業における浸水被害防止区域等からの移転支援を強化

流域治水整備事業／特定都市河川浸水被害対策推進事業
・区域内からの家屋の移転に係る支援

③被害の軽減早期復旧・復興の対策

危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラの設置(高度化)、周知

- ・ 逢瀬川や谷田川には、河川の水位情報や河川の状況を把握するための危機管理型水位計や河川監視カメラを設置している。
- ・ 水位情報や河川監視カメラの映像を「川の防災情報」や「川の水位情報」においてリアルタイムにwebで公開している。
- ・ 危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラの高度化を進めている。
- ・ 水位情報や河川監視カメラの情報について住民へ周知するとともに、住民の避難活動に活用してもらうようイベントや出前講座を通じて住民への啓発活動を実施している。



水位計の設置状況
＜逢瀬川（逢瀬橋）・郡山市＞

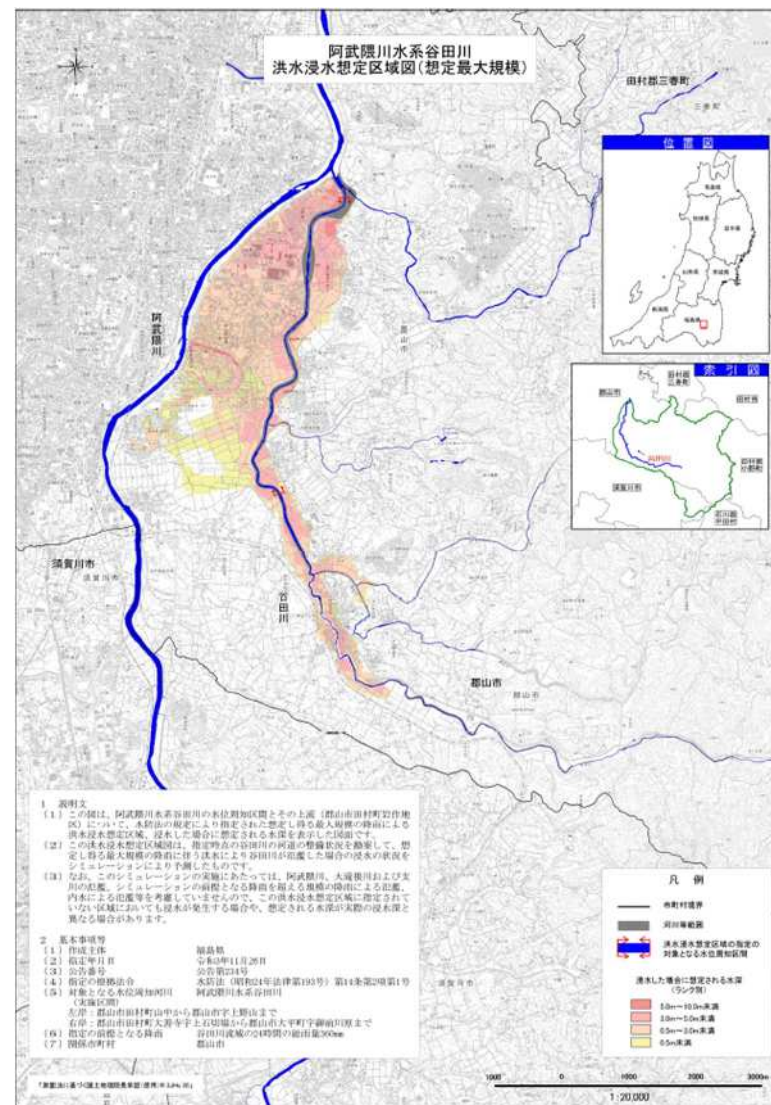
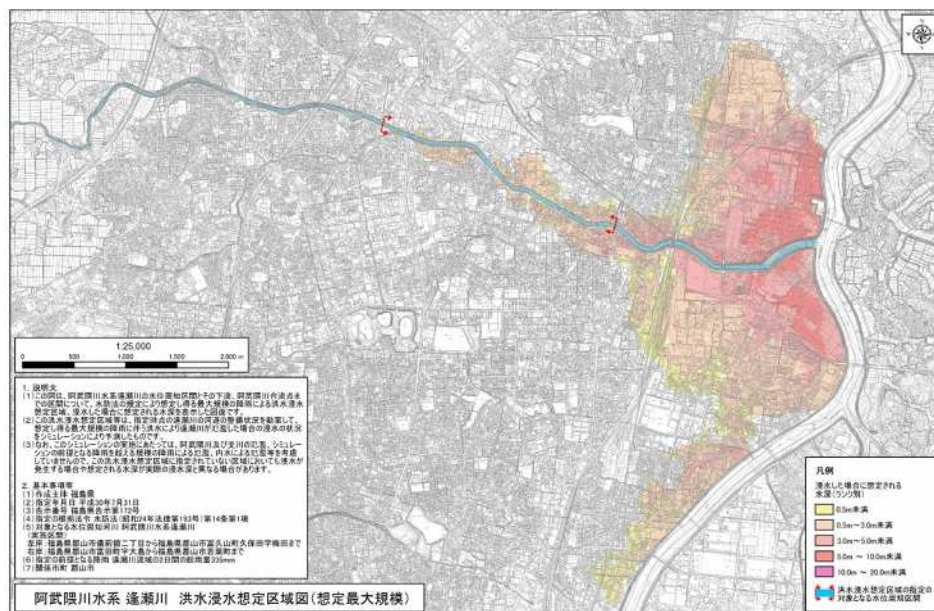


洪水浸水想定区域図の公表、周知

水位周知河川及び洪水予報河川の逢瀬川や谷田川について、想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域図を作成し、公表しており、住民の避難活動に活用してもらうようイベントや出前講座を通じて住民への啓発活動を実施している。



水位周知河川及び洪水予報河川（63河川）



逢瀬川流域・谷田川流域へのワンコイン浸水センサの設置、周知

- ・ ワンコイン浸水センサの設置推進により、リアルタイムで浸水状況を把握し、迅速な情報発信による被害軽減を図る。
- ・ 国土交通省では、住民の避難の迅速化に向けて、浸水の危険性のある地域に浸水センサーの設置を推奨している。
- ・ 県及び市町では避難の迅速化を図るため国土交通省の実証事業を活用し、浸水センサーを設置している。
- ・ 浸水センサーは小型の簡易的なもので、その形状からワンコインセンサーとも呼ばれる。
- ・ 浸水によりセンサーが発する電波が遮断されることで感知し、浸水箇所を確認できる。
- ・ イベントや出前講座等を通じて、住民の避難活動に浸水センサーを活用してもらうよう住民への啓発活動を実施する。

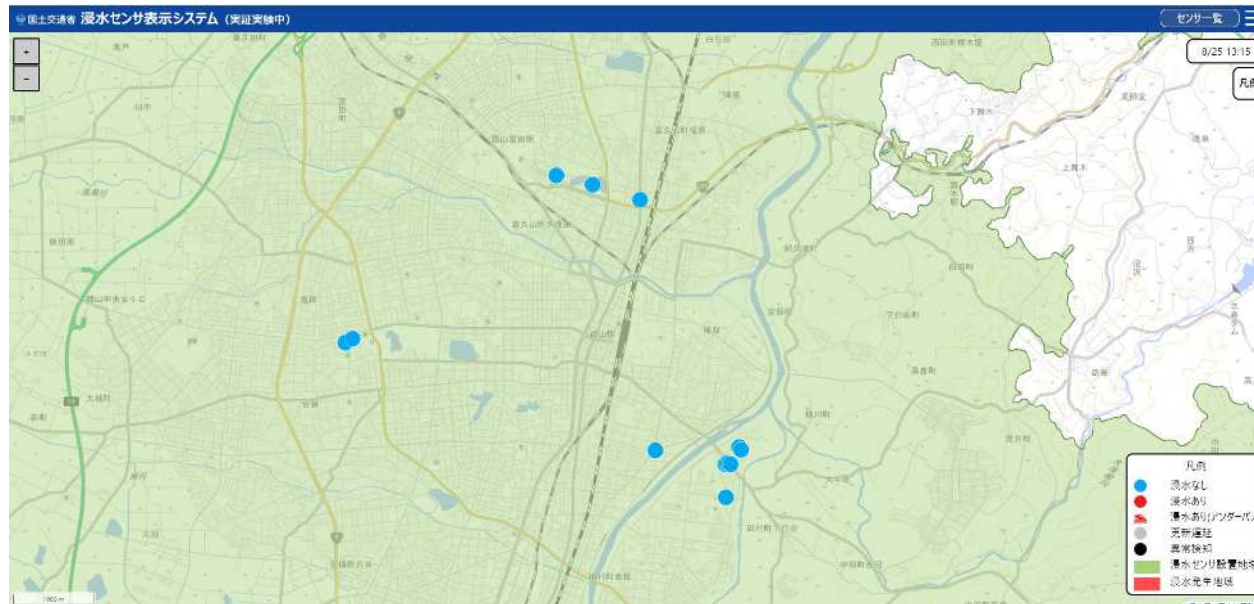
県設置数： 32箇所（7市町：福島市、伊達市、本宮市、郡山市、小野町、白河市、いわき市）

県管理道路のアンダーボックス等の冠水箇所や県管理河川の溢水・越水想定箇所等に設置

市町設置数： 161箇所（7市町：福島市、伊達市、本宮市、郡山市、小野町、白河市、いわき市）

浸水が発生しやすい低い土地等に設置

※上記には、逢瀬川流域・谷田川流域についての設置も含まれる。



逢瀬川流域、谷田川流域内の浸水センサーの状況（R7.8月末現在）



光陽無線（株）
／太陽誘電（株）



京セラコミュニケーションシステム（株）／マスプロ電機（株）

設置予定箇所



郡山市水門町地内
（小野郡山線）

排水ポンプ車の配備

- 排水ポンプ車の配備により、浸水被害の軽減や早期解消を図る。

1 排水ポンプ車の配備状況

○県内には国と市で合計21台

	会津	中通り	浜通り	合計
国	4	9	0	13
市	0	6	2	8
計	4	15	2	21

○ポンプ車の配置状況

■	福島河川国道事務所
■	阿賀川河川事務所
■	市

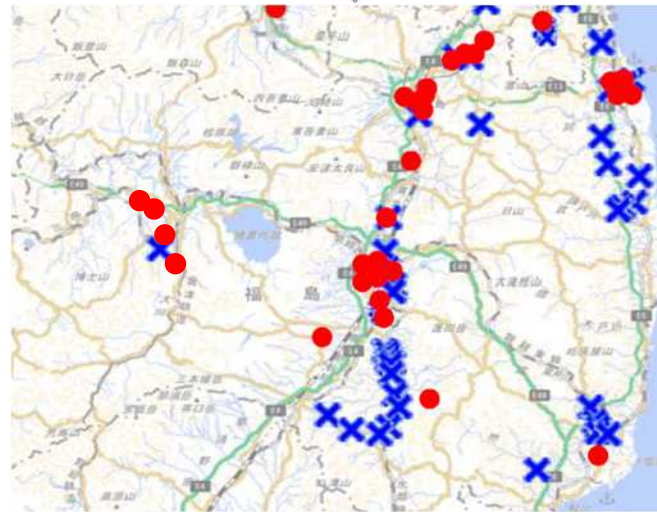


他県：16都府県で導入

2 令和元年東日本台風時の状況

令和元年東日本台風時には、国土交通省へ各市町村が要請を行い、県内の排水ポンプ車と全国の地整からの応援で集まった排水ポンプ車で排水作業を行った。

会津 4箇所
中通り 22箇所
浜通り 9箇所
合計 35箇所



凡例

× : 破堤箇所

● : 排水ポンプ車稼働箇所

情報提供
福島河川国道事務所
阿賀川河川事務所



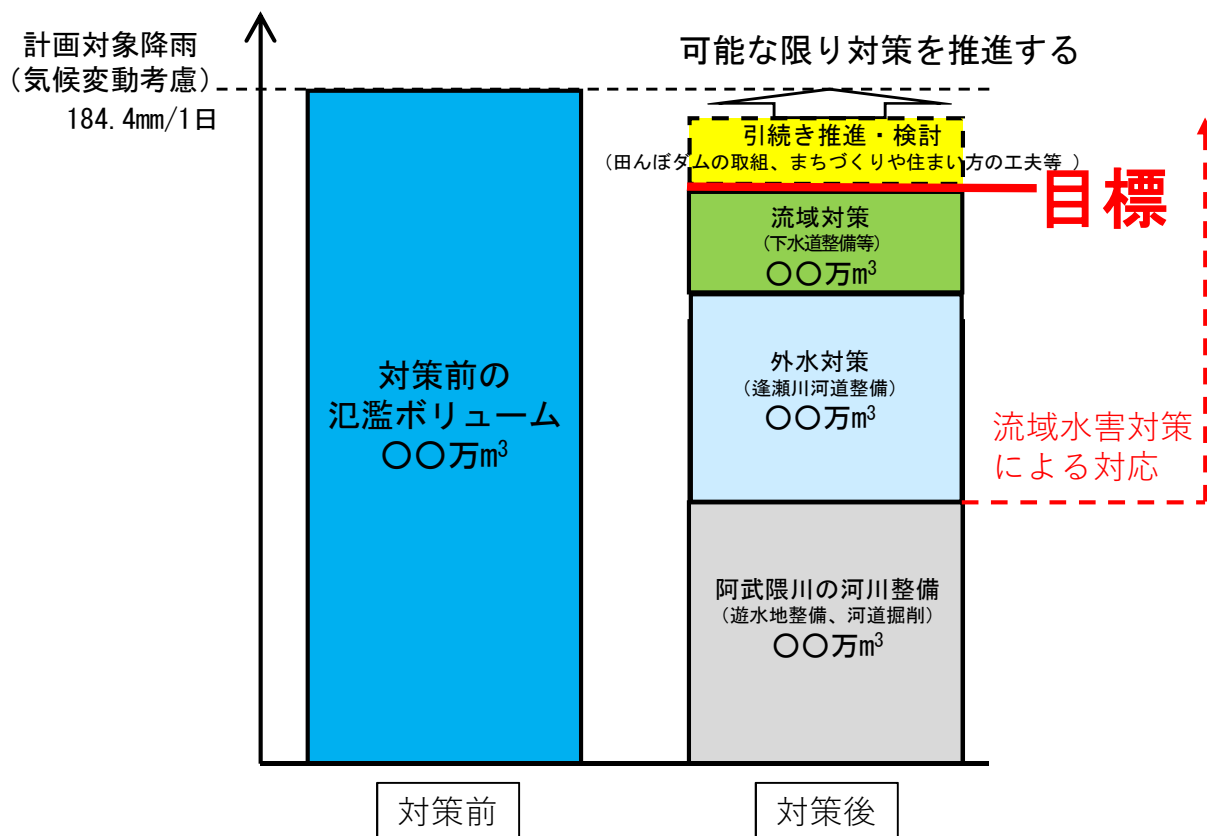
福島河川国道事務所と郡山市による排水ポンプ車の操作訓練状況（国土交通省HPより）



令和元年における排水ポンプ車の稼働状況（国土交通省HPより）

(2) 逢瀬川流域の流域水害対策計画における浸水被害対策

- ・ 逢瀬川流域水害対策計画では、流域全体での対策が必要となることから、各種流域対策を活用し取り組む。
- ・ また、大規模災害関連事業と次期河川整備計画による阿武隈川本川の河川整備が実施される。
- ・ さらに計画を上回る洪水に対しても、氾濫の被害を出来るだけ軽減するソフト対策を推進する。



流域水害対策の効果（イメージ）

【対策内容】

●引続き推進・検討

- ・ 田んぼダムの取組※
- ・ ため池の活用
- ・ 排水ポンプ車の配備
- ・ まちづくりや住まい方の工夫 等
の流域治水の更なる推進

●流域対策

- ・ 下水道整備
- ・ 排水ポンプの増強
- ・ 雨水貯留施設の整備

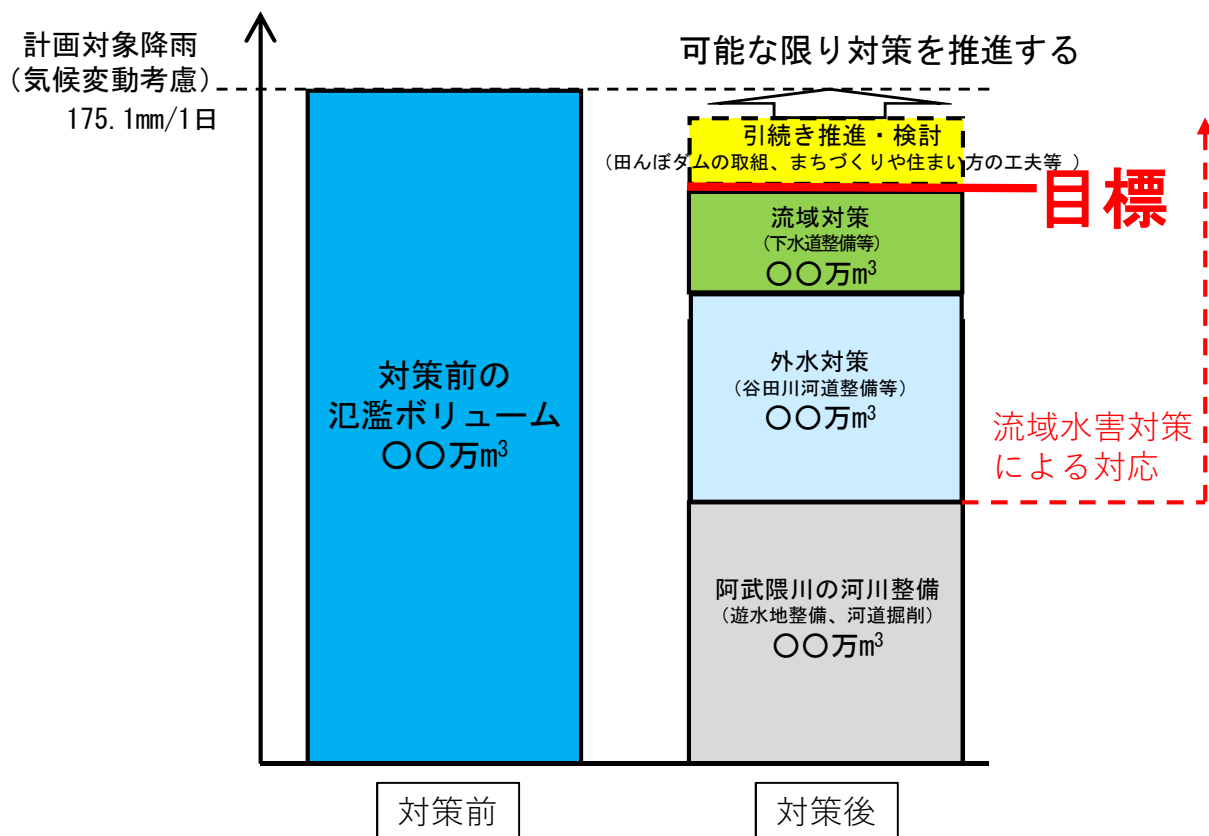
●外水対策

- ・ 逢瀬川河道整備

※(注1)畦畔の高さ、流出調整堰板の形状、栽培品種及び営農方法等によって貯留量は大きく異なります。
(注2)水稲生育に影響のない期間の取り組みであり、また、転作の状況により、時期ごとに取組面積が異なります。

(3)谷田川流域の流域水害対策計画における浸水被害対策

- ・ 谷田川流域水害対策計画では、流域全体での対策が必要となることから、各種流域対策を活用し取り組む。
- ・ また、大規模災害関連事業と次期河川整備計画による阿武隈川本川の河川整備が実施される。
- ・ さらに計画を上回る洪水に対しても、氾濫の被害を出来るだけ軽減するソフト対策を推進する。



【対策内容】

●引続き推進・検討

- ・ 田んぼダムの取組※
- ・ ため池の活用
- ・ 排水ポンプ車の配備
- ・ まちづくりや住まい方の工夫 等
の流域治水の更なる推進

●流域対策

- ・ 下水道整備
- ・ 排水ポンプの増強
- ・ 雨水貯留施設の整備

●外水対策

- ・ 谷田川河道整備

流域水害対策の効果（イメージ）

※(注1)畦畔の高さ、流出調整堰板の形状、栽培品種及び営農方法等によって貯留量は大きく異なります。
(注2)水稲生育に影響のない期間の取り組みであり、また、転作の状況により、時期ごとに取組面積が異なります。